

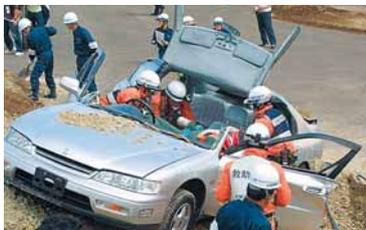
札幌市総合防災訓練

公助

9月1日防災の日に合わせて、手稲区でテイネオリンピア遊園地駐車場と北海道工業大学の2カ所を会場に「平成20年度札幌市総合防災訓練」が実施されました。区内の防災関係機関や関係各事業所、連合町内会など66団体、約1,800人が参加し「石狩支庁中部で震度6強の地震が発生し、土砂災害や建物が倒壊して多くの被害があった」という想定で行われました。今回の訓練は多くの地域住民の方々をはじめ、幼稚園児から大学生まで幅広く参加していただきました。



▲実践さながらの山岳救助隊



▲土砂災害に遭った車からの救助活動



▲こんなに大きな火でも消火器で消せました



▲要援護者を避難所へ誘導



▲声かけしながら被災者を搬送

共助

町内会などでは、日ごろから防災活動に取り組んでいます。



まちづくりは最大の治安です。

◀地域での防災活動について話す
うしいえきよし 氏家 清会長

稲積安全・安心まちづくり協議会は、平成18年に町内会が中心となって、安全で安心な稲積のまちにしていこうと、地域の35団体で構成されており、毎年テーマを掲げて災害に備えての自主防災訓練を実施しています。

今年は稲積公園内にある『ていねプール』を使用して8月25日に水難訓練を実施しました。

今年の自主防災訓練に水難訓練を行った理由について、「日本各地で大雨による洪水災害が多く、子どもやお年寄りが濁流の被害に遭っているので他人事ではないと思い実施しました」と話す同協議会会長の氏家さん。住民組織によるプールを借りての水難訓練は、全国でも初めての試みだったようです。

また、自主防災の在り方について「行政に頼るのではなく、行政機関や関係団体と協力しながら、自分たちのできることは自分たちの手で実施していくという心構えを持つことが大切です。そうすることで初めて、自分たちの家族や町を守ることができ、さらにはそれが安全・安心なまちづくりにつながります。」と語ってくれました。

稲積安全・安心まちづくり協議会での取り組み



ボートによる救助活動



▲水を飲んで重たいけど浮くのかな？



▲服を着たままは歩きにくいよ！



※ヒューマンチェーンって何？

※人が互いの腕をつかみ鎖のように連なって、水害にあった人を救出する訓練。